



世界最高レベルの医療をすべての子どもたちに

みなさまの温かなお気持ちやご支援、いつもありがとうございます。

ご寄付



ライオンズクラブ国際協会334-A 地区から、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)を通じて、名古屋大学小児科に、マスターサイクラーと超微量分光光度計とピペットマンという機器を贈呈していただきました。これらの機器は、急性白血病の遺伝子検査・白血病にみられる特定遺伝子異常を調べることができ、精度の高い早期診断を可能にするものです。



名古屋キワニスクラブから日韓台交流事業への助成金をいただきました。

実は、当基金設立の2016年に名古屋キワニスクラブから「社会公益賞」をいただいております。多くの市民の方々の善意を小児がんにかかわる支援に活かすことが、社会公益と認めていただけたのだと感謝しております。



マンスリーサポーターの方から、今年も、アズビル(株)とazbilみつばち俱楽部へ助成金申請をしていただきました。

イベント

この秋、さまざまな団体が小児がんの子ども達への想いをこめて、チャリティイベントを開催してくださいます。とてもうれしいです。

<9月7日(日)>

中日新聞クラウドファンディングにより、小児がんを治療した子どもとご家族25組をバンテリンドームでの中日・巨人戦に招待します。

<9月13日(土) 14日(日)>

とよた産業フェスタ2025が開催されます。会場にて、豊田ルネッサンスライオンズクラブが、広報と募金活動をしてくださいます。



<9月14日(日)>

「梯剛之さんのチャリティピアノコンサート」が豊田東名ライオンズクラブ主催で開催されます。

<9月28日(日)>



名古屋本丸ライオンズクラブ主催のチャリティーリレーマラソンが開催されます。

<10月5日(日)>

「チャリティコンサートクララの贈り物」が東海市芸術劇場にて開催されます。

<10月20日(月)>

名古屋シティライオンズクラブ主催のチャリティライブが開催されます。

小児がんグローバルイニシアティブ 国際シンポジウム報告

「小児がんグローバルイニシアティブ国際シンポジウム」は、過去4回東京で開催されてきましたが、今年6月28日、初めて名古屋での開催となりました。

今回は、当基金の活動の3つの柱
1 小児がんの新規治療法の開発と遺伝子診断
支援
2 保険適応外の薬剤購入支援
3 アジアの国々の小児がん治療支援
のうち、3番目に焦点をあてた報告をさせていただきました。

(1) 理事長小島勢二からは、日本・韓国・台湾・中国の小児がん専門医によるアジアコンソーシアムでの情報交換の重要性と、昨年から始めた小児がんサバイバー(AYA世代)の交流事業について報告しました。

(2) 名古屋大学小児科高橋義行教授からは
小児がんの最新治療法CAR-T細胞療法をタイに無償で提供し成功していることを報告しました。タイの病院からのビデオメッセージも流れました。

新規治療法は世界共有の財産だという熱い想いが伝わってきました。

(3) 名古屋大学小児科村松秀城准教授からは、すべての遺伝子を調べることができる次世代シーケンサーを使ったゲノム診断の重要性とその技術で海外の病院からの要請にも応えることができていることを報告しました。この保険適応外の診断法は、当基金の支援に支えられています。

(4) 認定NPO法人アジア・チャイルドケア・リーグ 渡辺和代代表からは、20年にわたるベトナムでの活動紹介と、名古屋大学で研修を受けて、骨髄移植ができるようになったベトナムフエの病院からのビデオメッセージがありました。

(5) NPO法人セイブ・イラクチルドレン・名古屋 竹内創事務局長からは、長い戦争や内戦で停滞していたイラク医療現場からの医師たちを快く受け入れてくれた名古屋大学での20年前からの経緯と、今年秋から悲願の骨髄移植センターを稼働できるところまでできることを報告しました。

昨年来日研修したイラク医師からのビデオメッセージも流されました。

最後に、当基金設立時から応援してくださっているライオンズクラブ国際協会334-A地区ガバナー柴田高志様から名古屋大学小児科への機器贈呈と、これからも小児がんの子どもたちを応援していくとの力強いメッセージがありました。

ロビーでは、「あいち小児がんの会」のおまさ方によるレモネードスタンドコーナーができ、参加者のみなさまがレモネードを購入することで、小児がんの子どもやご家族への支援となりました。



とてもとても暑い中、150人ほどの方々が熱心に聴いてくださいました。ありがとうございました。

THE 2nd EAST ASIAN WORKSHOP FOR CHILDHOOD CANCER SURVIVORS 報告

昨年韓国で開催された日韓台交流事業が、8月1日～3日、名古屋で開催されました。



<1日め>

名古屋小児がん基金理事長の小島勢二、韓国小児がん基金理事長 Jong Jin Seo、台湾小児がん基金理事長 Dong-Tsamen Lin からの挨拶から始まりました。

名古屋大学小児科の片岡伸介助教からは、日本の小児がんサバイバーの現状報告がありました。

日本・韓国・台湾のサバイバー代表の報告後3つのテーマ

- 1 治療後のヘルスケア
- 2 学業・キャリア・仕事・経済的な困難
- 3 社会的な関係・自身の成長

に分かれてグループ討論をしました。



辛い体験なども共有し、互いの距離が縮まった濃密な時間でした。

<2日め>

名古屋大学病院敷地内にある患者付き添い家族のための施設「ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや」を見学し、チャイルドライフスペシャリストの佐々木美和さん・名古屋大学看護学科新家一輝教授の講演を聞きました。

名古屋大学小児科高橋義行教授も会いにきてくださいました。

その後は、名古屋城・徳川美術館コースと、ジブリパークコースに分かれて、短い時間でしたが、名古屋観光をしました。ジブリパークのご好意で招待していただき、ジブリの大倉庫を楽しみました。

<3日め>

グループワークのまとめを発表しあい、韓国と台湾の小児がん基金の医師たちから、それぞれの課題や今後の取り組みについて話していただきました。

最後に、台湾小児がん基金理事長 Dong-Tsamen Lin 先生が、「待っています」と来年の台湾での開催を予告されました。

昨年の韓国での交流事業後、名古屋のサバイバーグループ「クロワッサンス」のメンバーは、3日間のプログラムを話し合い、毎週打合せをしながら準備してきました。仕事の合間での打合せは、大変なことも多かったですが、「最高に熱い3日間！すばらしい体験でした」と参加者から賞賛を浴びました。

名古屋小児がん基金理事長小島勢二が、「君たちは孤独ではない。仲間がいる。」としめくくりました。

ただいま報告集を作成中です。



空港にて 韓国・台湾メンバー

研究報告

EBウイルスによるガン化メカニズムの解明

Htet Thiri Khine,
名古屋市立大学医学研究科 ウィルス学

EBウイルスは、日本人の95%が幼少期から青年期に感染するありふれたウイルスであり、伝染性単核球症の原因ウイルスです。感染した後も、生涯にわたって、体内に潜伏し続けます。潜伏感染していても、ほとんどの人には、害を与えませんが、ごく稀に、胃がんや上咽頭がん、バーキットリンパ腫などのがんの原因となることがあります。

名古屋大学小児科では、以前から、EBウイルス感染症の研究に力を入れています。その一つとして、慢性活動性EBウイルス感染症患者から検出されるEBウイルスでは、ウイルス遺伝子が欠失しており、その結果、ヒトの細胞をガン化させることを発見しました。

この研究の中心となった奥野友介先生は血液腫瘍グループに属していましたが、2021年に名古屋市立大学ウィルス学の教授に就任。EBウイルスによるガン化の機序についての研究を進めています。

今回、奥野先生のグループは、EBウイルスによるガン化のメカニズムを解明するために、990株のEBウイルスの遺伝情報を次世代シークエンサーで解析しました。

EBウイルスは、20種類以上のがんの発症に関わっていますが、胃がんなどの上皮性がんでは1型EBウイルス、バーキットリンパ腫などの血液がんでは2型EBウイルスの関与する割合が多いことが明らかになりました。

すなわち、EBウイルスの遺伝情報の違いによって、生じるがんが違います。EBウイルス遺伝子の欠失は、血液がんでは高頻度に見られましたが、上皮性がんではほとんど見られず、ガン化のメカニズムが両者で異なることが考えられました。

EBウイルスの遺伝子でも、EBNA3B遺伝子に欠損が集中していたことから、この遺伝子ががんの発生を抑制する遺伝子、すなわち、ガン抑制遺伝子である可能性があります。ヒトがEBウイルスを排除しようとする免疫反応においては、EBNA3B遺伝子が重要な標的であると考えられました。

この論文の第1著者は、名古屋市立大学に所属するミャンマーからの留学生ですが、現在愛知県下4大学で活躍されている名古屋大学小児科出身のウイルス研究者が著者に名を連ねています。論文は、血液学分野では最も権威のあるBlood(インパクトファクター:23.1)に掲載されました。なお、研究費の一部に名古屋小児がん基金からの寄附金が使われました。

(文責:小島勢二)

特定非営利活動法人 名古屋小児がん基金

〒460-0012 名古屋市中区千代田5-11-33

ST PLAZA TSURUMA 本館4F

TEL&FAX 052-263-6995

E-mail info@npclf.or.jp

寄付金振込口座

ゆうちょ銀行振込口座

00820-9-153642

三菱UFJ銀行鶴舞支店 普通口座

0359380 (変わりました)

